

授業科目 衣服と環境			科目コード番号	
【担当教員名】 石井照子	対象学年	2	対象学科	栄養
	開講時期	後	必修・選択	選択
	単位数	1	時間数	30
【概要及び学習目標】				
<p>&lt;概略&gt;身体は限りない発熱体である。その熱を蓄積することなく放熱し、人体は恒温を維持している。放熱と産熱との均衡を保つのは基本的には生理的調節に夜が、人間が厳しい地球環境に適応することができたのは、被服や住居という殻を得たからである。被服環境が人体の一部として生理的な調節の補助手段として健康にたずさわると共に、被服の着装が人間の一面である完成の表現の役目もしている。被服環境は、被服素材、設計、製作、着装の技術や着装方法によって影響を受けるものである。人体―被服―環境の関係をとくに健康とのかかわりを中心に論ずる。</p>				
<p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>1.</p>				
回数	学習の主題	学習内容		学習方法
1	衣服着用の起源			講義
2	温熱環境と人体生理I	恒温を意地するための体温調節のしくみについて		講義
3	温熱環境と人体生理II	1) メカニズム、不感蒸泄とは? 2) 皮膚の働き―皮膚が人間の生理機能にどのように関わっているかについて講ずる。		講義
4	温熱環境と被服I	1) 温熱環境の指標と測定法について 2) 暑さ、寒さをあらわす指標		講義
5	温熱環境と被服II	衣服の快適性とは		講義
6	伝熱の基本的事項	被服を通しての熱と水分の移動性について		講義
7	被服の伝熱性	各種温熱環境に適した着衣について		講義
8	皮膚温について	人体の各部位の皮膚温の変化から「効果的な衣服の着用とは」について考える		講義
9	衣服圧・脂肪厚について	衣服を着用すると必ず人体に何らかの圧が加わる。その圧が人体に与える影響等について考える。		講義
10	被服の保護性・安全性I	保護服の性能は特殊環境の中で作業する労働者の生命に関わる衣服である。各特殊環境に対応する防護服の機能・保護性について述べる。		講義
11	被服の防護性・安全性II	防護服の基本的条件について		講義
12	高齢者・障害者の衣服I	生物学的側面からみた老化と衣服		講義
13	高齢者・障害者の衣服II	障害者にとっては障害の部位あるいは生活サイクルを考慮して各々の環境に適応するよう衣服の形態、種類、材質に配慮することが大切である。		講義
【評価方法】	課題によるレポート2-3 定期試験 出席状況			
【履修上の留意点】	<p>1. テキストにより指示に従って予習、復習をすること。</p> <p>2. 遅刻・欠席は安易にしないように。</p> <p>3. レポート等の提出期日の厳守</p>			

## 【使用図書】

教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	衣生活の科学	大野静江	健帛社	
参考書	快適な衣服を求めて 温熱生理学 人間と気候	ワトキンスS. M. 中山照雄 佐藤方彦	関西衣生活研究会 理工学社 中公新書	
その他 (プリント等)				